

～麻疹風疹・おたふく風邪・

水痘ワクチンのお話～

春先から沖縄を中心に流行していたはしか（麻疹）が一旦落ち着きました。

しかし、流行の終息宣言がでたからこそ、MRワクチン（麻疹風疹）、おたふく風邪ワクチン、水痘ワクチンそれぞれのワクチンの2回接種をおすすめします。また就学後のお子さんは、この機会に母子手帳で接種が済んでいるかを再度確認しましょう。

“麻疹のお話の項（HPNo.20）”もご参照ください！

流行して騒いでいるときに、我先にワクチン接種をするのではなく、平常時に備えておくことが必要です。国民の95%以上が2回接種していれば、社会としての免疫が保てます。社会としての免疫というのは、日本国内ではしか・風疹・おたふく風邪・水痘が発症しない、もしくは海外から持ち込まれても流行しないという意味です。そのような集団免疫がつけば、小さな子どもや免疫不全のためにワクチン接種できない人をVPDから守ることができます。

- ① MRワクチン：1回目は1歳、2回目は年長（就学1年前）
- ② 水痘ワクチン：1回目は1歳、2回目は1回目から約6ヶ月あけて
- ③ おたふく風邪ワクチン：1回目は1歳、2回目は2-5年後（流行期は6ヶ月後）

日本では、2014年10月に水痘ワクチンが定期接種（1歳～3歳前日が対象）となりましたが、定期化前で接種していない年齢の幼稚園や小・中学校でいまだに水痘が流行しています。

おたふく風邪ワクチンはまだ任意接種のため、年間60万人の子どもが発症しています。そのうち、重度難聴（生涯）が300人/年間、髄膜炎、不妊症（精巣炎や卵巣炎）を合併することがあり、かかってしまうと治療法はありません。

VPD(ワクチンで防ぐことができる病気)のため、ぜひ受けていただきたいワクチンです。

